



教員自己評価アンケートの結果



夏休み前の第 8 号で児童アンケートの結果を紹介しました。児童アンケートの結果と 1 学期の取組を振り返って 2 学期以降の指導に活かすため、教員アンケートを実施しました。

質問項目(7/21実施)	できた 概ねできたの割合	あまりできていない できていないの割合
①学校の決まりや生活指導の目標達成のため教職員がそれぞれの立場で指導する。	96	4
②学校や学級の決まりについて指導し、児童アンケートで「できた」「どちらかといえばできた」と回答する児童を80%以上にする。	83	17
③「善悪の判断」「正直・誠実」「規則の尊重」についての道徳の授業でしっかり考えることが「できた」と回答する児童を6割以上にする。	87	13
④「おはよう」「ありがとう」などのあいさつが適切な場面のできるよう指導し、「できた」「概ねできた」と回答する児童が7割以上にする。	100	0
⑤「人をいたわる言動ができて」「みんなと協力してよりよい学級や学校を造ろうと思っている」と回答する児童を 80%以上にする。	88	13
⑥障害や外国籍、LGBTQ 等の多様性の正しい理解のための授業や取組、研修を行う。	79	21
⑦児童の問題行動に対し各種機関との連携、校内での検討会を持ち、互いに支え合う中で、教職員が安心して対応できている。	83	17
⑧児童同士の意見交流を取り入れた授業を 6 割以上の時間において設定するよう心掛ける。	76	24
⑨タブレット端末を使って、課題解決のために調べ学習や意見交流で学びが深まったと感じる児童を増やす。	68	32
⑩児童が自分の考えを書いて表現し説明する機会をつくり、考えを人に伝えることがうまくなったと感じる児童を 5 割以上にする。	84	16
⑪自分の考えや思いを書いて表現、説明することが好きだと答える児童を 6 割以上にする。	67	33
⑫地域人材を活用した出前授業やキャリア教育を推進する。	63	37
⑬主体的・対話的で深い学びにとって有効な ICT の活用法についての研修や実践交流をもち教職員の ICT 活用能力を高める。	74	26
⑭学年会や特支担当会でICTの効果的な活用を話し合い、自分の授業に取り入れる。	65	35

規範意識向上の取組

本校の今年度の重点の1つは、規範意識の向上です。1 学期は、教員や児童会が一緒になって「あいさつ」の取組を行いました。同時に、「廊下を正しく歩く」「体育館に集まったときは静かにする」ことを意識的に取り組み、子どもたちも努力していました。

ほとんどの教員が、これらの取組に手ごたえを感じているようです。今年度の重点として、ルールへの指導の重要性を十分意識し教職員が一丸と

なって取り組んでいることの表れですし、児童も教員も互いに手ごたえを感じているということは、とても素晴らしいことだと思います。引き続き 2 学期以降も力を入れて取り組んでいきます。

教員アンケート⑤の優しい言動や協力と協働によるより良い学校(学級)づくりに関しては、87%の教員が肯定的に回答しています。しかし、最高評価の「で



きた」はわずか4%しかいませんでした。児童アンケートで、⑤「協力してよい学級学校を作ろうとした」について90%以上が肯定的回答をしている一方で、⑮「学校の生活は楽しい」で、12%と少な



い割合の児童がそう思わない、あまり思わないと回答していることを重く受け止めている表れのです。全ての児童が理想と希望を持って学校・学級づくりに参加し、「楽しい」と感じる児童を一人でも増やす努力をしていきます。

生徒指導等の学校の課題についての取組

「これからも教職員同士が助け合える温かい職場環境があれば、児童も教職員の姿を見て学ぶと思います。」とアンケートの記述欄に回答した教員がいました。⑦「生徒指導上の課題に対して、安心して対応できている」に対して、8割以上の教員が肯定的な回答をしています。⑧「できていな

い」が0ではありませんでした。先生が笑顔で生き生きと働けない学校では、子どもたちの健やかな成長は望めません。学校や学級で起こる生徒指導上の様々な課題に対して、先生一人の問題とせず、学年、学校全体で共に考え協力して助け合える温かい環境をこれからも整えていきます。

主体的・対話的で深い学びのための取組

教員主導で教えるだけの授業ではなく、児童同士が互いに学び合い新しい発見をしたり学びを深めたりできる授業。そんな授業を目指し、日々教員は取り組んでいます。アンケートによると、児童同士の意見交流を取り入れた授業に8割近くが取り組んでいると回答しています。まだあまりできていないと感じている教員も4分の1弱いますが、全くできていないと感じている教員はいませんでした。児童アンケートでは、92%の児童が「授業を通して新しい発見があった」と回答していますが、⑨「調べ学習や意見交流で学びが深ま

った」と児童の様子から実感できている教員は、68%で、少し低めです。「深める」という質問の仕方が難しいので児童アンケートには「新しい発見」を問いましたが、「深い学び」を実現することは簡単なことではありません。教員として、「今日はうまくいったな。」と手ごたえを感じる日もあれば、「もっと深められたのではないか。」と反省する日もあります。むしろ反省する日のほうが多いかもしれません。こうした反省を繰り返し、教員も日々努力を積み重ねていきます。2学期以降、1学期の取組を継続発展させていきたいと思っています。

教員アンケートの記述回答から

規範意識の向上や主体的…の学びの推進のために心がけていること(一部)



- ◇ 主体的・対話的で深い学びの始まりは、子ども達の興味・関心だと思うので、子どもたちが「なぜ」と疑問に感じるような授業の導入が大切だと思っています。
- ◇ 規範意識の向上：善い行いを全体や個人で褒めることを意識して学級活動を行っている。また、良くない行動が出た時になぜそれが良くないのかまで伝えるようにしている。
- ◇ 主体的・対話的で深い学びのために：ロイロノートで意見の交流をしたり、グループワークを多く取り入れたりするようにしている。子ども達一人一人の中で「できた」と思えるような声かけをするように心掛けている。
- ◇ 規範意識の向上については、規範意識の高い児童の姿が見られたときに、全体の場で具体的に褒めるようにしました。
- ◇ 主体的・対話的で学びの深い学びについては、相手意識を持たせるために話し方・聞き方のきまりを設けて毎時間確認するようにしました。
- ◇ 高学年としての自覚を持つように日々、声掛けをしている。授業では、子どもたち同士が相談しながら、参加できるように話し合う場をたくさん設けるように心がけている。
- ◇ 常に心掛けていることは、子どもの発言を大切にし、最後まできっちり聞くということです。
- ◇ 全ては「子どもを(深く)知る」ことからだと思い、精一杯、子どもに関わることに努めました。
- ◇ なぜダメなのかを子どもたちが理解して、行動できるように説明することを心掛けている。
- ◇ 子どもたちによる課題に対する話し合い活動をする機会を積極的に設けてきた。話し合いによって深めあうことができる課題を設定し、活動すること、話し合うことで深めあうことができたかどうかを確認することを心がけてきた。
- ◇ 常に「先生に怒られるからじゃなく、自分でどうすればいいのか考えて行動しましょう」と話しています。また、できる限り毎時間子ども達が自分で考えたことを交流できる機会を作っています。